

KPECnews

Vol.57
2012.5.1

K i t a k y u s h u P r o s p e r i t y E n r i c h m e n t C o u n c i l

c o n t e n t s

- 01-02 第6回理事会・評議員会報告
- 03 もったいない総研の活動
義務教育支援委員会の活動
- 04 産業人材育成委員会の活動



公益財団法人 北九州活性化協議会

ものづくりのまちは、 人づくり・価値づくりのまちへ！

「産業人材育成セミナー&産学交流会」開催



- 「このまちの確かな未来を創る！」今、そのために何ができるか？ が問われている。
- 北九州地域の産業基盤の維持・強化のためには、中堅・中小企業の経営力とイノベーション力の源である産業人材育成が必要！地域ぐるみの産業人材の育成に向けた環境を作り、産学協働により地域社会が互いに支え合いながら地域活力の向上を促していく好循環の創出の重要性を確認し、協働の地域システムを創ることを目標に産業人材育成セミナーを開催。
- 企業・行政関係者、大学・高専関係者、合計205名が参加。
(平成24年4月5日(木) 北九州国際会議場 国際会議室)





公益財団法人 北九州活性化協議会 第6回理事会・評議員会報告

北九州市立商工貿易会館において、平成24年3月9日(金)に第5回理事会、3月21日(水)に第3回評議員会を開催し、平成24年度事業計画および収支予算など、全ての議案が承認されましたので、概要を報告します。

平成24年度事業計画〈公共目的事業〉

1. 環境を未来に引き継ぐ事業

1-1 もったいない総研事業

世界の環境首都を目指す北九州市の環境政策を踏まえ、昨年に認定された「環境未来都市」の実現に向けて、市民・企業・大学・行政の協働の場づくりや「もったいない精神（こころ）」の普及のための交流機会の創出を行う。

(1) もったいないスクール2012

(社) 北九州青年会議所と協働で、中学生を対象とした「北九州ドリームサミット (KDS)」の事業の一つとして環境関連活動を実施する。

(2) もったいない精神(こころ)の普及

市民が環境意識を高めて持続可能な低炭素社会を作り出していくよう、生活に密着した活動を展開する。

① 環境「もったいない」作文の募集

北九州市PTA協議会と共催で、中学2年生を対象に環境作文を募集し優秀作品を表彰する。

② 「PTAフェスティバル(仮称)」での環境教育実施

北九州市PTA協議会と連携し、小・中学生を対象とした環境教育を行う。

③ 食と農のプロジェクト

地元の食材を楽しみ、環境に貢献しながら地元食文化を受け継いでいくと共に、子どもたちの食育を進めて、北九州の「食」と「農」の向上を図る。

○ 先進地域見学会、交流会など(年2～3回)

○ 有機農法で農産物を栽培する農園や、ショップ、レストラン等を発掘し、「もったいない総研」のホームページに掲載する。

④ リサイクルトイレットペーパーを通じた環境教育

学校給食の牛乳パックを「エコっパー」の原料として活用する方法を関係機関と連携して検討する。

(3) もったいない塾の開催

市民や企業の意識啓発のため、もったいない塾を開催する。

① 「ラジオもったいない塾」

北九州シティ FMの環境番組「エココロWind」にて、「ラジオもったいない塾」として、もったいない総研の活動などを紹介する(月1回)

② 環境に関する講演会の開催

③ 年長者研修大学校での講演

北九州市立年長者研修大学校(周望学舎、穴生学舎)において、もったいない総研の活動を紹介する。

2. 産業人材を育成する事業

2-1 北九州地域産業人材育成フォーラム事業

(1) インターンシップ事業の実施

○ 地域連携型インターンシップ事業の開発・実施

地域4工学系大学と中堅・中小企業の協働で実施する地域連携型インターンシップ事業を拡充する。

(目標:大学-4校、企業-60社、学生-100名)

○ グローバル人材育成事業の開発・実施

○ 北九州の産業・企業視察事業の実施

地域4工学系大学と中堅・中小企業の協働で実施する地域連携型インターンシップ事業

(2) 社会人教育プログラム事業の実施

北九州地域の大学の「社会人向け人材育成プログラム」を中堅・中小企業の経営力強化のために活用する仕組みと事業化の環境開発を行う。

○ 大学内企業説明会の実施

○ 出前講座の企画・開発の実施

3. 次世代を担う人材を育成する事業

3-1 「北九州の企業人による小学校応援団」事業

地域(経済界)が教育活動に参加することで、保護者の教育参加を促進し、家庭の教育力の向上を目指すとともに、出前授業や体験学習をととして、児童の意欲を高め、特性を伸ばす教育を支援する。

(1) 保護者に対する支援

① 「PTAの日」など、保護者がPTA活動に参加しやすい環境を整える。

② 親学講座を開催し、家庭の教育力の向上と教育現場の現状の理解を深める。

(2) 児童の学習支援

① モノづくりや環境をテーマとした出前授業を開催する。

(3) 教職員の研修支援

① 新任教員研修やマネジメント研修へ講師を派遣する。

3-2 ひまわり塾の開催

企業人と市職員それぞれが観点の違う立場から「北九州市のまちづくり」について考え、新しい発想のトレーニングをする場として発足した「ひまわり塾」を継続実施する。

○ 主催 (公財) 北九州活性化協議会、北九州市

○ 対象 企業人15名程度、北九州市職員15名程度

○ スケジュール 開講式:平成24年7月

発表会・閉校式:平成25年7月

4. 都市格（教育力・文化力）を向上する事業

4-1 「1000人の夢資金」事業

(1) 募金事業プロジェクトの推進

① 募金事業の実施

- i) 寄付の単位を1口3000円とした寄付金の募金事業を展開する。
- ii) 「1000人委員会」の編成し、この委員会を核として募金活動を推進する。(設立目途:平成24年4月)

(2) 助成事業プロジェクトの運営

- 助成先団体の募集
- 「KPEC1000人の夢資金」審査委員会の設置
- 助成先の選定

(3) 「1000人の夢資金」の広報・プロモーション事業の実施

- 「1000人の夢資金」ホームページの立ち上げ
- 「1000人の夢資金」設立記念講演会を開催

4-2 その他関連事業

(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で企画され、北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援する。

(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

市民主導によるビジターズ・インダストリー創出推進を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行う。

5. 情報受発信・交流事業

5-1 ABLEサロンの開催

地域社会の課題や地域政策などの動態を学び、KPECの活動の方向性を探るとともに、会員企業及び地域活性化に取り組む人との交流を促進することを目的として「ABLEサロン」を企画、開催する。

- 実施内容 講演会および交流会
- 実施回数 年間3回程度

5-2 情報受発信の強化

(1) KPECニュースの発行

KPECの活動及びまちづくり関連情報を集約、掲載した機関誌「KPECニュース」を発行する。

- 発行部数 1000部
- 発行回数 3回/年

(2) ホームページの運営

KPECが実施する4つの事業の個別ホームページを体系化し、事業分野の関係組織及び情報を集約しKPECホームページを設置、運営する。

5-3 地域づくりネットワーク事業

(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業

北九州市内の経済団体の連絡会議を編成し、法人経営

や事業運営の実務に関する情報交流を図ると共に事業連携を図る。

(2) 地域づくりネットワークへの参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」の北九州ブロック代表幹事として、同協議会主催の研修会・交流会等に参画し、北九州市域の地域づくり団体との橋渡し役を果たす。

6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

6-1 企画展事業

- 春 『伝える ⇒ 電話・ケータイ展』
- 夏 『(仮称) 遊びから学ぶ～「創る・造る・作る」～展』
- 秋 『(仮称) 工業デザイン展』
- 冬 『(仮称) 北九州イノベーター物語展』

6-2 調査研究事業

『北九州イノベーター列伝～近代産業を拓いた偉人達』
『(仮称) 板ガラスの技術革新史～旭硝子』
『鋳物産業の技術の系統化』など

6-3 教育普及事業

イノベーションフォーラム、技術革新講座（4回）、デザイン講座（3回）、ものづくりの心講座（工業高校生にものづくりの心を伝承）など

6-4 その他教育普及プログラム

(1) ワークショップ

- KIGSプロジェクト: 工業高校生、大学生らによるチーム編成で創造的ものづくりに挑戦
- KIGS倶楽部: 市民を対象にものづくりやデザインの実践コースを行う

(2) イベント

親子工作教室、KIGSミニ体験、産業映像上映会など

(3) 中学校の先生に学ぶ

理科実験教室など

6-5 映像製作事業

- シャボン玉石けん株式会社: 自然素材にこだわり人に優しい石けん作り・消火剤の開発

7. まちづくり推進事業

PPP（公民連携）や「新しい公共」など「支え合いと活力のある」社会の実現に向け、公益財団法人であるKPECの組織的位置づけを活かし、市民・団体・大学・行政等の連携軸として北九州の街づくりのための環境づくりを行う。

7-1 まちづくり講演会の開催

平成22年度に実施した「まちづくり講演会」を踏まえ、関係組織の連携強化と地域のシンボル事業の開発を目的として、経済団体と協働で「世界に広がる北九州のあすを考える講演会」を開催する。

7-2 まち域活性化に向けた新しい活動分野の研究

公益財団法人としてのKPECの組織的環境を活用し、「新しい公共」による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業の研究、開発を行い、事業化の方向性を検討する。

もったいない総研の活動

環境「もったいない」作文表彰式開催

未来を担う子供たちが環境問題への関心を深めることを目的に、北九州市PTA協議会と共催し、環境「もったいない」作文を北九州市内の小学5年生・中学2年生を対象に募集しました。

小・中学生各7点の優秀作品を選出し、2012年3月17日(土)に市立商工貿易会館多目的ホールにて、北九州市議会環境建設委員長 三宅まゆみ氏、北九州市教育委員会教育長 柏木修氏、北九州市環境局長 今永博氏にご臨席頂き入賞者を表彰しました。

また、小学生入賞者の作文をCDに録音して全小学校へ配布し、昼休みなどに放送して環境教育に役立てて頂くようにしました。

(事務局 伊藤)



北九州ブラックイルミネーションリレー&キャンドルナイト開催

環境省や、民間団体の呼び掛けに賛同し、今年度で4回目となる「北九州ブラックイルミネーションリレー&キャンドルナイト2011」を実施しました。

KPEC会員企業・団体へ冬至の日に可能な時間帯に事業所の照明を消してCO₂を削減するよう呼びかけ、多くの企業に参加いただきました。また小倉駅前のコレット井筒屋北側公開広場でキャンドルナイトを開催しました。

約800個の手作りのペットボトル再生キャンドルを使い、東日本大震災の鎮魂の意味を含めて日本地図を描き、灯を灯しました。当日は風が強く、総てのキャンドルに点灯することはできませ



んでしたが、九州と東北地方の部分に灯を灯して環境首都北九州から震災被災地へエールを送りました。

(事務局 伊藤)

義務教育支援委員会の活動

(公財)北九州活性化協議会は、平成21年に義務教育支援活動研究会を設置し、小学校の抱える課題を調査し、企業が取り組むべき方向として、「親学推進」「社会体験学習」「講師派遣」「環境づくり」の4プロジェクトを提言した。この提言を具体化するため、モデル校11校を定め、平成23年10月に小学校応援団を結成した。

以降、義務教育支援委員会はモデル校の個別の要望をヒアリングし、下記平成24年度の活動計画をまとめた。

(事務局 久多良木)

対象	支援要望	活動方針
保護者	●保護者のPTA活動への参加促進	●現在、進んでPTA役員就任にする保護者が少ない。PTA活動に参加し易い環境づくりとして、PTA協議会と連携してPTAの日を提唱し、その普及を図る。 ●PTAの日の日程および行事はPTA協議会および校長会に委ねる。但し、行事の一つとして親学講座を開催する。 ※注) 参加し易い環境づくりとして、土曜授業や授業参観を行事に取り込む。
	●家庭の教育力向上	●市がまとめた教育プランでは、教育にかかわる学校、家庭、地域が抱える課題として、規範意識、学習意欲、学習習慣、自尊感情、がまん強さ、目上の人への尊敬の気持ちが掲げられている。さらに、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身に付ける上で家庭教育は重要な役割を担っている。そこで、学校教育が抱える課題の共有と家庭教育および地域の教育の役割を共有するため、親学講座を展開する。 ●市教育委員会、PTA連合会、校長会の協力を得て、親学講座の講師をリストアップする。
児童	●出前授業や体験学習	●児童の興味・関心を引き、実社会との関連性を意識させることで、学習することの楽しさや社会との関連性を伝え、より高い学習意識、目的意識の醸成を目指すため、社会人講師による出前授業を進める。 ●そこで、企業ごとの出前授業を紹介する教育プログラムの概要版を整備し、学校に提案する。
	●アフタースクール講師など スクールヘルパー	●市は見守り活動や学習支援を行うスクールヘルパー制度を進めているが、一部の学校でスクールヘルパーが不足している。スクールヘルパーの活動時間は現役社員の勤務時間と重なるため、現役世代による対応は難しい。よって、企業OBや地域との連携などを検討する。
教員	●校長などのマネジメント研修	●企業人の経験をもとに、学校が抱えている共通の課題に関連した話題をテーマに講演を検討する。

産業人材育成委員会の活動 ― 産業人材育成セミナー＆産学交流会を開催 ―

平成23年度フォーラム事業の成果発表と大学と企業の交流ステージの創設に向けて

「北九州地域産業人材育成フォーラム」は、昨年4月に発足し、各種の産業人材育成事業の企画、開発を行ってきた。これらを総括し、広く広報するために、4月5日に北九州国際会議場で「産業人材育成セミナー＆産学交流会」を開催した。

セミナーには、北九州地域を中心に、205人の産学官関係者が出席した。

セミナーは、「ものづくりのまち北九州の“人づくり・価値づくり地域クラスター”の形成に向けて」と題して産業人材育成フォーラム委員長・鹿毛浩之氏（九州工業大学副学長）が、フォーラム事業の方向性を説明した後、インターンシップ戦略講座として「インターンシップで人材発掘を！ ― 中小企業経営におけるインターンシップの効用を考える」と題して（株）戸畑ターレット工作所 代表取締役社長・清永誠氏が、また、「Win-Winのインターンシップとは」と題して研究プロジェクトリーダーの佐藤明史氏（（株）九州テクノロジーサーチ エコタウン事務所長）が、インターンシップの有効性を説いた。

続いて、「変容する地域社会 ― 変革期をタフに乗り切る産業人材育成とは― 大学、企業、そして、地域社会は何をすべきか!」と題して、九州工業大学をはじめとした地元工業系3大学学長と国立高専校長、企業経営者そして学生によるパネルディスカッションが行われた。

パネルディスカッションでは、関係者が本音でトークを行い、産業人材育成や就職観等について生の声を聴くことができ、参加者も身を乗り出して熱心に聴講していた。

セミナー後は大学関係者、地元中小企業代表、北九州市や福岡県などの官公庁関係者を招き産学交流会が開催された。企業関係者等79名、大学・高専関係者35名、合計114名が参加し、大学と企業経営者の新しい交流の場として、実りある交流が展開され、毎年開催をすることが確約された。

フォーラムでは、平成23年度インターンシップ事業の実践を踏まえて、北九州独自の「地域連携型インターンシップ」実施マニュアルを策定し、それをCDに収録して、セミナー参加者に配布した。



「学生のための北九州企業発見ツアー」の実施

北九州産業人材育成フォーラムは、北九州商工会議所が推進する「産業観光」事業と連携して、産業観光バスツアーを実施した。その狙いは、次のとおり。

- ほとんどが全国各地から参集し卒業後は全国各地に展開する地元大学、高専の学生に、北九州市の産業を見学・学習してもらう。
- 企業訪問を通じて学生の「社会人マナー」や「就業意識」の向上を図る。
- 北九州市に対する理解を深めてもらうとともに、周囲や郷里で北九州のPRをしてもらうことで観光客誘致や知名度の向上につなげる。

対象大学は、産業人材育成フォーラム事業に参画する、九州工業大学、北九州市立大学、西日本工業大学、北九州工業高等専門学校の4校。2月29日、3月1日の2日にわたって、トヨタ自動車九州（株）、新日本製鐵（株）八幡製鐵所、シャボン玉石けん（株）、TOTO（株）を、107名の学生が、北九州の生産現場を見学するとともに、社会人としての仕事



の取り組みの現場を視察した。

産業人材育成フォーラムと北九州商工会議所は、今回の結果を踏まえて、今後、恒例事業として年3回程度の実施を考えている。

（事務局 波多野）

